

# 総裁東伏見慈洽猊下の密葬に参列して

竹田 豊

大日本武徳会総裁東伏見慈洽猊下のご冥福を心よりお祈りいたします。

平成二十六年一月一日午前四時二十五分総裁東伏見慈洽猊下が逝去されました。

五日通夜、六日密葬と決定され私は六日の密葬に参列しました。青蓮院門跡・宸殿正午、式衆が入堂し天台宗の密葬儀次第により執り行われた。祭壇の両側には沢山の供花が並んでいた。読経のなか後方より冷たい風が時おり吹き抜け、それに合わせ背筋がのびる。

ご親族焼香に続き一般焼香に移る。総裁のご功績と本会における多大なるご尽力に改めて感謝とお礼を込め焼香いたしました。

密葬儀が終わり、いよいよ出棺の時刻となり総裁とのお別れです。今まで青く晴れ渡り、青蓮院門跡の楠の彼方に、太陽が照っていたが、天候が急激に崩れ雨となった。寒さも加わり雨はついにみぞれとなり、その中を紫、黄緑、朱の僧衣に朱や紺の袈裟をかけた僧侶たちの葬列が進み、霊柩は車に消え青蓮院門跡を後にした。掌を合わせてお見送りをする。先ほどまで、みぞれが降っていたが、天候は元の青天に戻っ

た。出棺に合わせたとても不思議な時空だった。突然のみぞれが降る天候の変化のように、いつ辛苦がやって来るかも知れず、また状況が厳しくても日々しっかりと自分を見つめ、新たな目標に向かい突き進めば順風もまた吹く。「突然の冷たいみぞれは慢心を正す精神への鉄槌であり、驕ること無くしっかりと地に足を着け、休む事無く日々精進し前進しなさい。」との総裁から私たちへのメッセージだと思ったのは私の独善だろうか。

この不思議な体験は心に残る貴重な財産であると私は感じました。

合掌

